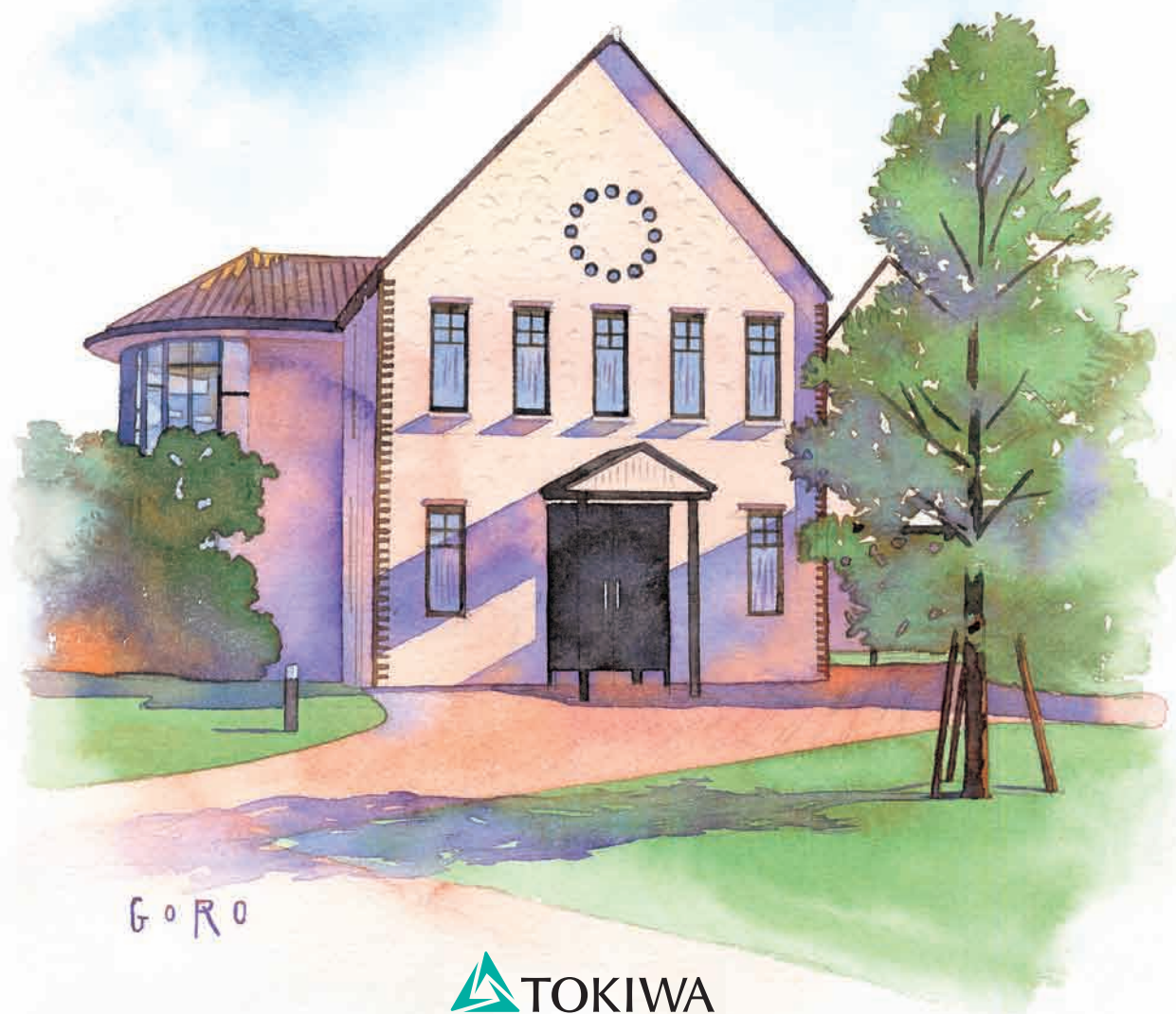


# 常磐

TOKIWA  
vol. 12  
Feb. 2009



 TOKIWA

## 表紙説明

### 常磐大学同窓会館

2005年2月、高校、短大、大学、大学院の各同窓会をつなぐ連合同窓会の発足に伴い、その活動の場として、常磐大学高校に程近い水戸市新荘に常磐大学同窓会館が竣工した。

2階建て総床面積471.6平方メートルの会館は、開放的なエントランスホール、応接室、多目的な用途に使える楓ホール、ゼミ・クラブ・サークル等の会合に適した会議場を備え、卒業生はもちろん、在学生、教職員、保護者の方々の交流の場として広く活用されている。



イラストレーター／佐々木悟郎

常磐 TOKIWA  
Feb. 2009  
vol.12

発行日 2009年2月  
発行 学校法人常磐大学  
編集 常磐大学 広報課

〒310-8585 茨城県水戸市見和1丁目430-1  
Tel.029-232-2511 (代)  
<http://www.tokiwa.ac.jp/>

## CONTENTS

- 1 特集 法人開学100周年  
**ありがとう！  
常磐は今年開学100周年**  
理事長挨拶 新たな100年に向けて
- 3 開学100年の歩み ～トキワクロニクル～第1部
- 5 諸澤みよ常磐開学物語
- 7 シリーズ「常磐・ひと・歴史」家族で代々、常磐育ち
- 9 シリーズ トキワの風景 一学ぶ人編一
- 10 キャンパスレポート  
学生生活の中から寄せられた声を紹介
- 11 教員エッセイ  
教員から寄せられた研究分野の魅力や逸話を紹介
- 15 TOKIWA NEWS  
トキワから旬な話題をお届けします



学校法人常磐大学は2009年の今年、開学100年を迎えます。  
この大きな節目を記念して、本誌では全3回に渡って大特集をお送りします。  
今号では、これまでに本学が歩んできた道を、様々な角度から振り返ってみます。  
建学に込められた想い、受け継がれてきたこと、そこには1909年以来  
100年支持され続ける理由が見えてくるはずです。

## 特集 法人開学100周年

# ありがとう！ 常磐は今年 開学100周年

## 今は学校教育の転換期

1909年に裁縫伝習所を開設以来、常磐は女学校、短期大学を順次開設し、降りかかる幾多の困難を乗り越え、今では幼稚園から大学院までを擁する教育機関となりました。本年、開学100周年を迎えられることとなりましたのも、常磐で学んだ方たちのご支援や、地域の温かいご支持の賜と、心からの感謝を申し上げます。

この期に日本の学校教育を見渡してみますと、大きな転換期に差しかかっているように思います。近年、日本は国際学力比較で点数がとれないことで、これまでの旧態依然の学習方法が問題になっています。21世紀の情報化社会では、ある程度の知識はすぐ調べられますから、学校教育の中で身につけるべき知識とはどういうものか、ということに焦点が当てられるようになってきました。

「考える力」を育てることが第一  
そもそも学校教育というのは、生活の上で必要な知識と考え方を身につける、ということだと考えます。子どもは毎日の生活の中で、自然にいろいろなことに興味を持ち疑問を感じ、その答えを発見しながら成長していきますので、まず興味や疑問を持つ、ということが学習意欲の糸口になります。

幼稚園から大学・大学院まで共通して言える大切なことは、「考える力」を育むことです。「考える力」があることで、疑問があるから調べよう、調べてわかると面白い、だから勉強が楽しいという気持ちにつながり、どんどん知識を得、知恵を育てることが出来ます。そのためには、教育の現場で、子どもたちが普段疑問に思っている物事に応えられることが大切です。

## 学ぶことの喜びから 生涯学習へ

しかしながら、「考える力」を育てるということは、短期的に実現できるものではありません。やはり十年以上継続的な教育をやって、初めてしっかりと身につけていくものだと思います。「一貫教育」の必要性はそこにあると考えています。理想的な一貫教育ができることは私学の強みです。それを実現させるために、今年度、智学館中等教育学校を開校しました。智学館では、子どもたちが自発的に勉強するようになったという変化が起きています。これは「考える力」を育てる教育の成果です。学ぶことが楽しくて、やっつけている間に気がついたら勉強ができていく、という理想の形が、少しずつ芽吹き始めています。

生涯学習と言われて久しいですが、未だに生涯学習というとなぜ若い人がいないのかと言われます。それは、もともと学生時代に体験しているはずの「学ぶことの喜びと楽しさ」を経験したことがある人が少ないからではないでしょうか。生涯学習が続ける姿勢の基礎は、初等中等教育でつくる必要があります。まず、学ぶのが楽しい、だから、学校も楽しくなる。この流れをつくることこそが根本です。それが、卒業後も自発的にさまざまなことに興味を持って、生涯にわたって楽しく学んでいけるようになり、そしてより良い社会人として生きていくことにつながります。

本的なブラッシュアップも視野に入れています。もちろん、その根幹にあるのは、1909年の開学以来100年にわたり標榜してきた建学の精神です。過去の100年があったからこそ現在があり、未来があります。創立者から脈々と続く教育への想いを受け継ぎ、これからの時代に合わせその実践の方法を発展させていくことが大切であると考えます。  
常磐には茨城を中心とした地域に多くの卒業生の方がいらして、お子さんやお孫さんを入学させてくださっています。それは常磐の教育を信じてくださっている表れでもあると思います。そういう温かな思いを大切に、謙虚に考え、この先も常磐で学んだ方たちが期待していらつしやることにきちんと耳を傾けながら新しい常磐へと進化してまいります。

学校法人常磐大学

理事長 諸澤英道

理事長挨拶

## 新たな100年に向けて





# 開学100年の歩み

## ～トキワクロニクル～

現在では幼稚園から大学院まで教育の架け橋をつなぐ学校法人常磐大学。そのはじまりは小さな裁縫伝習所でした。それから100年、常磐が歩んできた歴史をここで振り返ります。第1部の今回は、その創設期を辿ります。明治から昭和にかけた激動の時代の中で、女子教育の礎は築かれていきました。

第1部  
女子教育の第一歩  
～  
短期大学開学

1972

当時の短期大学キャンパス

1966年  
(昭和41)

1951年  
(昭和26)

1948年  
(昭和23)

1947年  
(昭和22)

1946年  
(昭和21)

1944年  
(昭和19)

1935年  
(昭和10)

1922年  
(大正11)

1909年  
(明治42)

常磐と社会の主な出来事

時代背景

各学校の教育内容

1905(明治38)年  
●ポーツマス条約が締結される

富国強兵をきっかけ教育が活発になる  
都市部にくらべ、農村部では依然、  
女子教育は軽視されていた。

1907(明治40)年  
●水戸に電灯がとまり、電話が開通

小田木みよ 水戸市馬口労町に  
「小田木裁縫伝習所」を開設

1914(大正3)年  
●日立鉾山の大煙突完成  
●第次世界大戦はじまる

水戸常磐女学校を開校  
校長 諸澤みよ(本科、専攻科、研究科)

1925(大正14)年  
●普通選挙法の成立  
1930(昭和5)年  
●茨城県庁舎水戸市三の丸に竣工

常磐高等女学校を開校  
校長 諸澤道之介

昭和16年、校訓「至誠・自律・和  
協・勤労・感謝」が定められ、後に  
高校にも掲げられる

1941(昭和16)年  
●太平洋戦争はじまる

戦火の拡大により、女学生にも人手  
不足の農業や工業を手伝う銃後の  
守りが求められた。

水戸常磐女学校本科を  
常磐商業女学校へ改編

1946(昭和21)年  
●日本国憲法公布

戦争で校舎を焼失した常磐では、青  
空教室から学校をスタート、焼け跡  
には作物を育てた。

常磐商業女学校を  
常磐女子商業学校に昇格

1947(昭和22)年  
●初の県知事選挙、県の人口200万人突破

学制改革により、常磐高等女学校に  
併設中学校が置かれる

学制改革により、  
常磐女子高等学校を開校  
(普通科、被服科、商業科、別科)  
校長 諸澤みよ

私立学校法により、  
学校法人常磐学園を設立  
理事長 諸澤みよ

1956(昭和31)年  
●日本が国際連合に加盟

1962(昭和37)年  
●銚子大橋が開通

1964(昭和39)年  
●東京オリンピック開催

社会情勢が安定し高度経済成長期  
を迎えた日本。常磐でも、年々設備  
を充実させていった。

常磐学園短期大学を開学  
(家政科家政専攻、家政科食物栄養専攻)  
学長 諸澤みよ

1969(昭和44)年  
●筑波研究学園都市起工

1970(昭和45)年  
●日本万博博覧会開催

小田木裁縫伝習所

子供の着物から花嫁衣装、  
さらには袴、足袋、シャツ  
など多彩な裁縫に挑戦し  
た。日本刺繍・造花・押絵  
などの手芸も学んだほか、  
小笠原式の作法の授業が  
あった。ほとんどの生徒は  
寄宿し教員と暮らした。

水戸常磐女学校

単なる良妻賢母主義ではな  
く、さらに生活能力ある職  
業人を養成。科ごとに変わ  
るが、修身(戦後の道徳のよ  
うな授業)、国語、算術、裁  
縫、家事、手芸、生花等を学  
んだ。後に、理科、音楽、図  
画、英語、地歴、体操なども  
加わり、教養が充実した。規  
律の厳しい当時、流行歌を口  
ずさめば叱られたという。



常磐高等女学校  
初代校長  
諸澤道之介

常磐高等女学校

授業は教養が中心だが、  
戦時中は学業よりも勤労  
奉仕や防空演習に明け暮  
れた。体育の時間には難  
刀や軍事訓練も行われ  
た。戦況が激しくなると、  
工場へ出動するようにも  
なった。



高等女学校でも生け花を学んだ

常磐女子高等学校

進学に実績をあげたこの  
頃、茨城大学の進学者数  
は女子の私学としては県  
内最高だった。クラブ活動  
も活発で、特にソフトボ  
ール、家庭クラブ、陸上競技  
では全国的な有名校に。



秋の運動会

常磐学園短期大学

女性の特性を活かせる科  
目が開設され、中学校の  
家庭科の教員が目指せる  
家政科家政専攻と栄養士  
資格が取れる食物栄養専  
攻を設置。幼稚園教諭や  
保育士を目指す幼児教育  
科が増設された。

第2部では短期大学開学から現在までを  
「一気に」紹介。次回「常磐」13号をお楽しみに。

当時の短期大学の風景



1969

戦後の復興工事が進み、講堂も新築



1955

ミシンを使った洋裁の授業



1949

生徒増加とともに、校舎は増設された



1939

制服制定まで、生徒はえび茶の袴に  
下駄を履いて登校した



1922

1対1の個人指導が一般的だった時代、  
黒板を使った一斉指導を行った



1918





結婚記念写真

みよは一日の校務が終わわり、夕食後子どもを寝かせたあとに、毎日夜を徹して裁縫をしました。こうして、必ず朝までに着物を二枚仕上げ、学校設立の夢を叶える資金の助けにしたのです。



戦後復興の第一歩、1号館の竣工式



諸澤みよ記念館  
開館時間/10:00～16:00  
利用料金/無料  
日曜・祝日・学校休業日休館  
問い合わせ  
常磐大学 卒業生センター  
水戸市新荘1-7-26  
Tel&Fax/029-231-8162



昔の実習作品。着物、洋服から、ベビー用品まで、多彩です。



高等女学校で使われた縫製の見本や、さまざまな補綴方法がわかる教材。



裁縫の授業の教科書。手に取って読むこともできます。

大正時代から教室で時を刻み続けた大時計。

当時の学びを今に伝える教材の数々  
誌上 思い出博物館



みよ愛用の眼鏡も、エントランスホールのだこかに飾られています。ぜひ探してみてください。

みよ自筆の書「金剛石も磨かずば玉の光はそわざらん」。人に備わった資質や才能が、学ぶことで初めて開花することを詠った、昭和皇太后御歌「金剛石」の一節です。



外観は、みよが過ごした「旧諸澤邸」をイメージ。

もっとみよを知るなら  
諸澤みよ記念館

かつて「小田木裁縫伝習所」のあった地、その隣りにたたずむ洋館建築が「諸澤みよ記念館」です。みよの軌跡と面影を伝えるべく、常磐開学100周年を記念して建てられました。ゆったりと館内を巡れば、生涯を常磐と共に歩んだみよの姿が浮かびあがってきます。

## 東京で見つけた教育者への夢

諸澤みよは明治20年12月、現在の水戸市藤井町に小田木家の次女として生まれます。みよは尋常小学校を卒業すると高等科へ進みますが、進級したのはみよ以外全員男子だったといいます。

教育熱心な一方、小田木家は時代の風潮に従い封建主義的でもありました。これに苦しみこともあったみよは、男女で大きく違う権利や、家族制度における戸主の権利、人よりも家を重視することなどに疑問を抱き、女性の自立の大切さを感じるようになるのです。

## 創立者の描いた夢

# 諸澤みよ 常磐開学物語

諸澤みよ  
(1887～1974)

## 小さな学び舎からの出発

22歳で帰郷したみよは、旧姓を冠した小田木裁縫伝習所を開きます。六畳三間・四畳半一間のささやかな塾で、黒板を使いながら明快な裁縫指導を行いました。また、裁縫に留まらず、女性や人間としての在り方や、礼儀作法なども指導しました。これについて、みよと生活を共にした当時の教え子の方が、後に記しています。

「家の中を行ったり、来たりするときは空手で歩かない。つまり無駄歩きをするなどということ身をにつけさせられた。物を置くときでも真直ぐに置くよう教えられた。先生は『女は』芸を身につけておきなさい」と言われた。一つの物事を修得す

## 女性教育の学校を設立

こうして大正11年、ついに水戸常磐女学校を開校します。校長として経営に携わるみよでしたが、裁縫理論と実技は校長自らが生徒の指導にあたりました。一般的に、衣食住に関して仕事をこなすことは主婦のつとめとされていた時代。家事と裁縫の技術養成と、実践力を重視するこの女学校生徒の実力は、群を抜いていたようです。また、ここでは小学校教員資格の取得も支援し、みよは裁縫理論や教授法の授業とともに、資格試験の過去問題を研究し答案の書き方を教えるなど、きめ細かく指導しました。このため、この女学校からは多数の小学校裁縫専科の教員が誕生することになります。



水戸常磐女学校の校長時代

さらに昭和10年、教養を求める女子の増加に対応して、常磐高等女学校を設立します。道之介、みよの預貯金や所有地を投げうち、親戚にも協力を得ての開校でした。

## 焼け跡からの再出発、そして飛躍

昭和12年より、日本は長い戦争時代に入ります。学校もまた、戦火からは逃れられず、世の中が凄惨をきわめる昭和20年、水戸大空襲により校舎が焼け落ちます。それでも終戦を迎えると、みよは10月には青空教室を開校し、その後は元兵舎の建物を借りて授業を続けました。また、戦後の資材不足のなか、3年後には校舎を再建。配給に頼らず、原木を購入して校庭に建てた製材工場で作ったといえます。

やがて、法人化を経た常磐学園は、より高度な教養や知性が女子に望まれる時代に応え、常磐学園短期大学を開学、みよは初代学長に就任しました。

「これからの女子は自分の時間を見い出して読書をし、世の中の人の話を聞いて、自分自身を磨かないと世の中から取り残されます」と話していたみよ。みよが終生追い求めた「実学」という教育理念は、100年後の今日に脈々と受け継がれています。





### 榎山さん ご家族 親子2代

お母様 榎山眞弓さん  
常磐女子高等学校 1977年度卒

お姉様 川崎樹里さん  
常磐短期大学 生活科学科  
生活科学専攻 2003年度卒

在学生 榎山美里さん  
常磐大学高等学校 3年



1 美里さんのサッカー部ユニフォーム。  
(右サイドバックとして関東大会出場  
経験の持ち主) 2 眞弓さんの楽譜。  
(今でも使っているピアノ教科書は  
年代もの) 3 樹里さんの卒業証書と  
資格認定書は、在学中の努力の証。

100年にもわたる常磐の長い歴史。  
そのなかには、世代を超えて常磐に学び、  
その心を代々受け継ぐご家族があります。  
シリーズ第1回の今回は、そんな  
常磐ファミリー二組の登場です。

# 常磐育ち 家族で代々、

## 「常磐・ひと・歴史」 法人開学100周年シリーズ

### 柳橋さん ご家族 親子3代

ご祖母様 柳橋のぶ子さん  
常磐女子高等学校 1962年度卒

お母様 柳橋啓子さん  
常磐女子高等学校 1987年度卒

お姉様 柳橋希美さん  
常磐大学幼稚園 2007年度卒

在園生 柳橋花香さん  
常磐大学幼稚園 さくら組

妹様 柳橋里音さん  
常磐大学幼稚園 まつのご組



1 皆勤賞がその後の誇りに繋がった  
と語る、のぶ子さん。 2 幼稚園の  
パンフレット「トキワの森」には希美  
ちゃんの姿が。 3 大切に保管され  
ていた、女子校時代の校章バッジ。



卒園した一番上のお孫さんを初  
め、三姉妹全員が常磐大学幼稚  
園に通っている柳橋さんご二家。  
古くからの常磐を知ること、お母  
様・のぶ子さんにとつて、お嫁に  
来られた啓子さんは常磐女子  
高校の後輩にもなります。昔の  
思い出から今の幼稚園の様子ま  
で、普段からご家族で常磐の話  
をされているようです。

—それぞれの時代、高校  
はどんな様子だったのか  
—

のぶ子 とにかく厳しい学校

で、毎朝ものさしでスカートや  
髪の高さを測られました。そ  
の反面、先生は楽しい方ばかり。  
若い男の先生が恥ずかし  
がつて横を向いて授業をしてい  
たのは今でも笑い話です。

啓子 私の時も服装が厳し  
かった。でもそれ以外は堅苦  
しくなく、過ごしやすい気風  
の中で、よく分かりあえる友  
人がたくさんできました。

—お子さんは三人とも  
幼稚園に通われているん  
—

啓子 最初は友人から評判  
を聞いていたのと、環境の良さ  
が決めた手でした。二人目から  
は、もう幼稚園は常磐でとい  
う流れができていました。高

次女・美里さんの常磐大学高校  
卒業を間近に控える、榎山家の  
皆さん。ご結婚された長女・樹  
里さんは常磐短大のご出身。週  
れば、お母様・眞弓さんの伯母  
様、大伯母様まで常磐ご出身と  
いう常磐ファミリーです。ご家  
族のお話からは、卒業後も長く  
活きる技術という、実学の姿が  
見えてきます。

—進学される際、常磐  
を選んだ決め手は何でし  
—

たか。

眞弓 常磐出身の親戚から、  
学校全体が学業に真面目だと  
いう話を聞いていたんです。実  
際に教育熱心で授業がおもしろ  
かったですし、私も中学校の時  
より断然勉強をした印象があ  
ります。

美里 母の出身校というのと、  
サッカーに興味があつて、サッカ  
ー部のある常磐に決めました。

樹里 私の場合は常磐が家か  
ら近かったというのもありま  
すし、当時目指していた秘書  
や情報資格が取れることが  
魅力でした。

—在学中はどんなこと  
を身につけられましたか。

樹里 技術面ですね。料理や  
裁縫、パソコンは毎日の生活に  
役立ちました。もうすぐ入園

校生のころ、園舎を見ながら  
「子どもができたらここに通  
わせよう」と冗談で話していた  
のが本当になったんです。

のぶ子 子どもたちは毎日幼  
稚園の話をしてくれましたよ。  
花香 わたしはトキワの森が  
好き。いろんな遊びができる  
んだ。

啓子 希美は昔、水生植物園  
が好きで、いつも泥だらけで遊  
んでいました。一番下の里音も  
まつのこ組に通い始め、同年代  
の子と一緒に楽しそうです。

—常磐で過ごした時間  
はどんな存在といえるで  
—

のぶ子 3年間無欠席で通つ  
た高校生活は、私の自信と誇  
りになっています。友人や先生  
とも長い付き合いが続いていま  
すよ。

啓子 私も一生の友人ができ  
た場所ですね。当時女子高  
生だった私たちが、結婚や育  
児の相談をし合うようになる  
なんて、感慨深いものがあり  
ます。今は子どもも幼稚園に  
通っていて、とても身近に感じ  
ています。

のぶ子 在学中にはグラウン  
ドだった場所が、今は校舎に  
なっています。見るたびに学校が  
発展されているのは嬉しく思  
いますね。  
(敬称略)

する子どもの通園バッグも私  
が作る予定なんです。

眞弓 私の場合は、短大で児  
童心理を学んだことが、自分  
の子育てに活かしました。子  
どもの気持ちを考えてながら自  
信を持って育児ができました  
ね。当時の教科書を使ってピ  
アノを弾いたりもしましたよ。

樹里 私の子育てにも、母から  
「子どもの気持ちになつて」と  
アドバイスがありました。

—常磐ではどんな思い  
出がありましたか。

出がありましたか。

樹里 学校で料理を習い、帰  
ると同じものを作って復習して  
ました。それからキレイなキャ  
ンパスが、気に入っていました。

眞弓 私はクラスマッチ大会の  
バレーで優勝したのが印象深  
いです。バレー部から勧誘され  
たりして。スポーツ好きは美  
里に受け継がれましたね。

美里 私の一番の思い出はサッ  
カー部。それから授業が楽し  
かったです。授業参観のときは、  
母まで夢中になってました。

眞弓 子どもを惹きつける工  
夫に感心したんです。それから、  
私たちの頃もそうでしたが、常  
磐の学生は挨拶がよくできます  
よね。それは昔から変わらない  
と思います。家族で常磐だと偶  
然恩師に会えたり、ずっと学校  
に関われるのがいいですね。  
(敬称略)



## ダンス大好き!『Boogie Train(ブギートレイン)』 Campus Report 1

私は、ダンスサークル「Boogie Train」に所属し、学園祭や学内発表、学外発表でダンスを披露するために日々練習を重ねています。

ダンスには、BREAK、HIP HOP、JAZZ、POP、LOCK、GIRLS HIP HOP、MIDLESCHOOL HIP HOPといった、さまざまなジャンルがあり、親切でやさしい先輩たちが基礎から丁寧に教えてくれるので、初心者でも楽しくダンスを覚えることができます。ほとんどの先輩たちは、大学からダンスを始めた人たちがばかりなので、大学からダンスを始めても決して遅くはありません。ダンスというのは、運動能力に関わらず誰にでもできるものです。ただ少しの勇気さえあれば、ダンスを楽しむことができ、新しい自分を見つけることができるでしょう。

現在の部員数は約40名。一人ひとりがとても個性的で、毎日飽きることがありません。共通して言えることは、みんな笑顔であることです。いつも笑いが絶えず明るく、元気な人たちがばかりです。ダンスを楽しむことにより自然と笑顔が生まれるのです。また私たちは、人と人とのつながりを大切にしているので、人間的にも成長できます。例えば「挨拶」です。もし大学でサークルの仲間、知り合い、先生方に会ったら、元気に挨拶することを心がけています。挨拶

をすることにより、お互い通じ合うことができ、信頼関係も生まれます。また、自分自身を表現できるものなので、ダンスに共通するものがあると考えます。このように一見当たり前のようなことを大切にしていきたいと思っています。

2008年度の学園祭では1,000人以上の方々に私たちのステージ発表を見に来ていただき、言葉にできないほどの感動を味わうことができました。サークルのみんなが協力し、一丸となって取り組むことで成長できたと思います。これからも応援よろしくお願いします。



常磐大学 人間科学部 コミュニケーション学科 3年  
Boogie Train部長 川田 健太

## 介護実習を終えて

Campus Report 2

私は訪問介護員2級の資格を取得するために、介護実習に行ってきました。講義や教科書だけでは学べないことも身をもってたくさん学ぶことができました。

実習初日、不安と緊張でいっぱいでしたが、施設実習はデイサービスでしたので、自立して行動できる方が多かったのが安心した気持ちで実習に臨めました。実際に利用者の方を車椅子で押して歩くのは初めてだったので、スピードや少しの段差ばかり気にしてしまい、利用者の方とのコミュニケーションがとれませんでした。しかし、利用者の方から話しかけてくれたので、だんだんとうまく積極的にコミュニケーションがとれるようになりました。コミュニケーションをとる上で、利用者の方が笑顔になってくれると、とても嬉しく思えました。食事の配膳や移動の介助程度しかお手伝いできることはありませんでしたが、この職業のやりがいというもの少し分かった気がしました。

ホームヘルプサービス・訪問看護は、利用者の方のお宅に行ってサービスを行うということで、寝たきりの方や、その家族の方にとってとても助かる仕事だということが今回の実習でよく分かりました。特に訪問

看護での排泄の介助は医療的な行為ということもありますが、生活する上で排泄は大切なことなので、この介助の重要性がよく分かりました。はじめ見たときは驚きを隠せませんでしたが、看護師さんの一生懸命な姿や、家族の方の感謝の言葉を聞いて、真剣に向き合うことができました。

介護職は今回の実習では体験することがなかった辛いことや大変なことがたくさんあると思いますが、それを毎日一生懸命働いていらっしゃる職員の皆さんは尊敬できる存在だと思いました。介護の現場を目の当たりにして、改めて介護職の素晴らしさや大変さを実感でき、私にとって大変貴重な経験となりました。



常磐短期大学  
生活科学科  
生活科学専攻 2年  
鬼澤 典子

SCENE #01

## クラス写真

裁縫伝習所では裁縫指導のほか、日常生活の知識や技術、礼儀作法まで指導をしていました。建物や学生の装いは変わっても、生活科学専攻でも衣食住を学ぶところに共通点が。2008年度より生活科学専攻は学生募集を停止しましたが、これにより、キャリア教養学科の充実発展が期待されています。



2008

常磐短期大学

平成20年、生活科学専攻を中心とした学生の皆さんが集まってもらいました。衣食住とともに、時代のニーズに合わせて福祉も勉強中です。



← 1917

諸澤裁縫伝習所

大正6年、日本髪を結った、着物姿の生徒たちが勢揃い。その後ろには、木造の塀に囲まれた塾舎が見えます。

## トキワの風景

学ぶ人編

100年の間、社会とともにさまざまな姿を変えてきた常磐。現在の原点となった過去の常磐の風景を、保存されている昔の写真に探してみました。そこには、いつの時代も学ぶことに真剣な学生たちの姿があります。



1933

水戸常磐女学校

昭和8年、英語の授業の様子。昭和3年にそれまでの袴姿に代わり、エンジのスカートを縮めたセーラー服が制服に制定されました。



SCENE #02

## 英語の授業風景

木製の長机が印象的な戦前。女子は家事さえできればよいとされたこの時代、常磐ではすでに、読み書きを中心とした英語教育を行っていました。共学化を経た現在では、授業や教育法にさまざまな工夫をほどこし、コミュニケーション能力の養成にも力を入れています。

2008

常磐大学高等学校

ネイティブの教員による指導や、グループで話し合う授業など、様々な工夫された学習法で生きた英語が身につきます。「コーラボ」ではコンピュータやネットワークを使って語学学習ができます。





言葉の難しさ

新聞記者にとって言葉は命である。新聞が使ったことで、流行語になる例も少なくない。特に、見出しは言葉の選び方で読者の注目度に大きな開きが出るだけに難しい。それが、さほど人口に膾炙（かいしや）していないキーワードとなればなおさらである。

話は9年前にさかのぼる。千葉市や北海道栗山町など一部の地域で、お金ではないが、限られた地域のグループ内だけで通用する一種の商品券のようなものが出回り始めていた。

それは、地域社会内で財やサービスを交換する仕組みであり、通貨ではないが、通貨と同じようにやり取りできる。里山の草刈りをしたらいくら、介護を手伝ったらこれだけといった具合に、ボランティア活動などの見返りに受け取る。受け取ったものは自分が人にサービスを頼むときに使える。ただ、現金には換えられない。

対象となる活動は、介護、福祉、環境、自然保護、動物保護、災害時の救援、教育、商店街振興、地域文化活動など地域社会に関わることなら何でもよい。介護、福祉で言えば、簡単な日常生活の支援や心のケアなど公的介護保険の対象にならないサイ

ビスや、要介護の認定を受けていない高齢者へのサービスなどに使える。病院への送り迎え、買い物代行、雪かき、話し相手なども対象になる。

定年退職者や子育ての終わった女性などが、サービスの提供を通じて、地域に貢献する道を開くことになる。その結果、世代間や地域に住む人たちの交流が活発になり、思いやりのあふれたまちを築くきっかけにもなる。

この種の活動は、すでに英国ではLETS、米国ではタイムドルといった形で普及していた。この仕組みは、これからの日本の地域社会でも有用と感じ、コラムで取り上げることにした。幸い、他紙はまだ触れていない。問題はこれを何と呼ぶかである。

当時、エコマネーという言葉が使われ始め、中央官庁にもその普及に熱心な人がいた。エコマネーは、エコノミー（経済）、エコロジー（環境）、コミュニケーション、マネーの四つの意味をからめた造語だった。これをそのまま使えば、ある程度は認知されただろう。

だが、何となく抵抗があった。こじつけの和製英語だし、カタカナというのも気になった。その頃、地域通貨と

いう言葉も一部で使われ始めていた。この新しい事象を何と呼ぶか。多くの読者を持つ新聞で使う言葉が、おそらく定着することになるだろう。

改めて調べると、この取り組みのすべてをエコマネーと呼んでいるわけではないことがわかった。それなら地域通貨という一般的な言葉を広め、エコマネーは地域通貨の一つと位置づけるのがよいのではないか。

「根付かせたい地域通貨」（2000年2月27日付け日本経済新聞朝刊、『中外時評』）という見出しのコラムはこんな思考過程を経て生まれた。

これは、すでに4月から常磐大学への着任が決まっていた筆者にとって、36年間の記者生活に終止符を打つ、署名記事としては最後のものだった。

エコマネーを含む地域通貨は、新聞に掲載した時は全国で30例ほどだった。それが2002年春の時点で研究中のところを含めて150を超え、2008年11月には約800に及んでいる。一都道府県当たり平均17に達する計算である。

その後の言葉の普及度を見るためにインターネットで検索すると、グループではエコマネーが65万6000

シェイクスピアを探して

ロンドンにはテムズ河の南岸バンクサイドに、エリザベス朝時代の劇場が再建されると聞いたのはいつのことだったろうか。シェイクスピアが生きた時代にそのほとんどの作品が上演された「グループ座」再建のことである。

最初のグループ座は、1599年にロンドン初の公共劇場「シアター座」を解体、その廃材で建てられた。柿落としても、不運な焼失の原因となったのもシェイクスピア劇という、文字通り「シェイクスピア劇場」である。

しかし再建までの道のりは長かった。伝統保存には情熱を傾ける英国人だが、影も形もない350年も昔の芝居小屋を、今さら復元してどうするのかと何年も議論は続いたのである。そして1971年、第1回国際シェイクスピア学会での再建決議で、ようやく建設への幕が上がったのである。1997年6月の落成までには、当初の予定を遙かに超えた14年の歳月がかかっている。

私は「新グループ座」の完成が待ち切れず、オープニング2年前、建設現場の見学ができると知ると、ロンドンに飛んだ。足場の上に筵を敷いて案内人に導かれ、やっと建物に近づく状態であったが、ほぼ全容を掴むことはできた。かつて学生時代に、

作家生誕の町ストラットフォードのシェイクスピアセンターで展示を見た時、グループ座の紙の模型を買って帰り、夢中で組み立てたものだ。

その円形の劇場が目の前に聳えている。薄茶色のオーク材の梁、眩しいほどの白い漆喰壁、そして葦葺き屋根がテムズ河を見下ろしている。

当時の劇場を正確に復元すると上演はどうなるのだろうか。天井のない屋外劇場だから、まず興行期間は気候の良い5月から9月に限られる。円形のギャラリー席には屋根があるが、広土間はオープン構造だから、夏のマチネは日差しに灼かれ、日が暮れば夜気に晒され、雨天決行なのでしばしば雨にも打たれる。座席は狭い木製ベンチだからじっとしているのは辛いに違はなく、過酷な観劇を強いられるのは必定である。

それでも落成2年後の1999年夏、私は「新グループ座」を目指して再びロンドンへ向かった。マチネと夜の部で違う席を買う。広土間券なら破格に安い。ベンチ席用には「クッションの貸し出し」、天井のない立ち席には「雨合羽の購入可」とある。昼興行を観る日は好天で、広土間には太陽がきらきら照りつけている。だいた、芝居は3時間ほど続

く。それでも床に座ってはいけない。座り込む人がいると、どこから見張っているのか、係員が寄って来て「お立ちください」と懇懇に指図する。日陰の通路に座りでもすれば、「ここは座席ではございません」と笑顔でベーパーハットを渡してくれる。さすがに途中で辛くなり、「メートルほどの高さの舞台に肘をついて、暑さに耐えた『アントニーとクレオパトラ』観劇だった。

夜の部は打って変わって夕暮れの川風が心地よい。ビールやワインを飲みながら、開演を待つ賑やかな雰囲気芝居見物の魅力だ。一杯のワインのせいか座席券が見つからない。係員に訴えるとコンピュータに名前を入力して座席を探し当ててくれた。幕間にトイレの案内を頼んだら、大棺を手にして『ジュリアスシーザー』での出番を待つ役者の一人だった。グループ座へ行くとは何故か平常心を失ってしまう。

懲りずに昨夏、3度目のグループ座へ足を運んだ。インターネット購入のチケットは、三層構造の座席のてっぺん近くで屋根の真下のまさに天井桟敷。その上、斜に舞台を見下ろす妙な角度の席。

やはりグループ座との相性は良くないらしい。当日、地下鉄がストライキに突入。こんな時タクシーはもちろん拾えない。バスでテムズ河の近く

件、地域通貨が124万件、ヤフーでは前者が43万8000件、後者が160万件ヒットした。「地域通貨」という言葉が確実に浸透していることが裏付けられてほとした。



常磐大学  
大学院コミュニティ振興学研究所 教授  
コミュニティ振興学部長 教授

井上 繁

早稲田大学第一政経学部卒業。日本経済新聞社編集委員、論説委員などを経て現職。専門：地域政策、地域づくり。日本都市学会理事、地方自治経営学会理事。



常磐短期大学  
キャリア教養学科長 教授  
村松 俊子

学習院大学大学院人文科学  
研究科イギリス文学専攻博士  
課程単位取得満期退学。文学  
修士。専門：イギリス文学。  
日本英文学会、日本シェイク  
スピア協会、英日文化協会員。

## 予想外の苦労

アメリカから帰国して3か月がたった。思えば6年前、ニューヨーク行き旅客機の搭乗口に立つて帰国した後のことを考えたとき、ある程度アメリカナイズされることは予想していたが、日本に慣れるのにまさか自分がここまで苦労するとは思っていなかった。

高校時代、自分の自慢の二に「父親は旅行会社の添乗員なのに、自分は外国へ行ったことも、飛行機にすら乗ったことがない」というのがあった。僻みではなく、海外というものに得体の知れない恐怖感を覚え、海外の文化に触れ感化されるのが嫌だった。大学卒業後、ニューヨークにある高校への赴任が決まり、自分を変えるチャンスかもしれないと意を決して行つてはみたものの、そううまくことが運ぶわけもなく、僕の心は環境の変化に耐え切れず、しばらく硬い殻に閉じこもったままだった。しかし、頑なに周囲を拒絶する姿勢をとっていた僕を、アメリカ人は両手を挙げて歓迎してくれた。その姿に感動した僕は少しずつ新しい環境に心を開けるようになったのである。

アメリカでの生活は良い意味での期待はずれの連続で、日本にいて新聞やニュースなどメディアからの情報

だけでは知ることのできない本当のアメリカの姿を知ることができた。また、日本から離れてみることで、日本に対する価値観も相当変わったように思える。とはいえ、自分からアメリカ人の友達を作り、近所づきあいに買い物にと嬉々としてアメリカ生活を満喫する妻を横目に、常に帰国後のことを考え、日本にいたときよりも積極的にメディアを活用し、なるべく日本離れしないように気をつけて過ごしていた。自分より先に帰国していった先輩たちが、日本での生活に慣れるのに苦労しているという話を聞くたびに、自分にはありえないと根拠のない自信を持っていたのである。

2008年8月、6年ぶりの帰国。根拠のない自信に満ち溢れていた僕は、成田から実家までの移動でいきなり衝撃を受けた。次々と目に飛び込んでくる「活字」と、恐ろしいほどのボリュームで聞こえる「他人の会話」である。アメリカにいた頃は、英語があまり理解できていなかったせいか、町に出て看板の文字や、他人の会話が気になることはまったくなかった。それはばかりか、映画のワンシーンをしている、あるいはBGMを聞いているといった具合に町の雑踏、

景色、他人の会話を楽しんでいたほどだ。ところが日本に帰ってきてみると、企業の広告、テレビ番組の宣伝ポスターなどに描かれた小さきまざまな活字が向こうから勝手に目に飛び込んできて、正直めまいがした。そして他人の会話。当たり前日本語が使われているせいか、聞こうとしないのにとんでもないボリュームで耳に入り、話もある程度理解できてしまふ。映画のワンシーンだった町の風景は、モンスターのようには僕に襲い掛かり、実家につく頃は具合が悪くなるほどだった。

そして食事。渡米後初めてレストランに行ったとき、メインディッシュのステーキだけでなくサラダやスープ、デザートのコヒーにいたるまでそのサイズの大きさに驚いた。当然食べきることはできず、半分以上を家に持って帰ったわけだが、月日は流れアメリカの食事の量も苦にならなくなる頃には、僕の胃袋は確実にアメリカナイズされていったようで、帰国後にお気に入りの某コヒーショップに入ったとき、カップの小ささに驚いた。2杯飲んでも満足できず、3杯目を注文したときの店員の驚いた顔はいまだに忘れられない。もちろんレストランに行っても満足できる量を食

べられることはまずなかった。頼みの綱であった家庭での食事も、日本に戻ってきてすぐに日本での普通の量へと変わった。3か月がたち、気持ちでは理解できるようになったが、体はそう簡単に理解できないよう、常に空腹感と戦うはめになり、諸先輩方の苦労が痛いほど身にしみた。

最近では、学校のないときにリハビリ（？）を兼ねて積極的に人ごみに紛れ込むようにしている。活字のほう

はだんだん気にならなくなってきた。町の雑踏と空腹感を年内に克服し、一日でも早く日本に慣れたいと思う今日この頃である。



常磐大学高等学校 教諭  
等々力将仁

常磐大学高等学校国語科教諭。東京都出身。慶應義塾大学文学部卒業後、非常勤講師を経て2002年渡米。慶應義塾NY学院で6年間勤務の後、2008年8月帰国。

## 名盤に封印を

高校に入學して間もなくのこと、昼の放送でスピーカーから流れるメロディーに心を奪われた。放送委員に曲名を尋ね、さっそくレコード店でLPレコードを購入した。ラヴェル作曲の「ボレロ」という曲であった。

クラシック音楽に目覚めてからというもの、あちこちでレコードを買い求めた。限られた予算で多くの盤が揃う中古屋にはとても世話になった。話には聞いていたが、指揮者が異なると同じ曲が本当に違って聞こえる。そんな聴き比べをするうちに、ますます深みにはまっていた。

雑誌や単行本のレコード評を読みつつ針を落とす。CD全盛の今となつては、針音やスクラッチノイズも懐かしい。評判通りの演奏もあれば、どこがいいのかと首をかしげてしまうものもある。切手収集家は文通目的で切手を集める訳ではない。レア物を眺めながら、一人悦に入るのが切手収集の醍醐味である。私の場合も同様に、やがてレコード収集そのものが目的となった。純粋に音楽を楽しむ以上に同曲異盤の聴き比べが至福の時となり、さらなる名盤を追い求める長い旅が始まった。

「美しいが迫力不足、クライマックスの盛り上げ方がやや性急、ソリス

トは絶好調だが指揮者のテンションが今一つ」等々の様々な理由から、究極の名盤との出合いは決して容易なことではない。そして「あちらを立てればこちらが立たず」の例にもれず、第楽章の美しさにかけてはこの盤だが、終楽章は断然こっちの盤といったケースが少なくない。でも、ごくごく稀に、本当に運よく巡り合いの機会を許された名盤中の名盤は、天の女神様のご加護にひれ伏しながら、そのままラックに封印する。何故か。

例えて言うおう。至高のラーメンの探求者たる者は、ラーメン雑誌を手にとり片時も情報収集を欠かさない。西にスーパの旨い店があれば、ガソリン代など物ともせず。さらに東に売り切りじまいの名店ありとの噂を聞けば、早起き行列尻の河童。麺の道を究める楽しみは、このプロセスにある。そしてたいいの場合その道程は果てなく続くのだが、仮に、万が一にも究極の一杯との出合いを迎えてしまったその時、敬虔なるラーメン教信者の身の上に起こり得ることは何か。目的を成し遂げてしまった彼は、おそらく生きる望みを失う。生き続ける意義を見失う。哀れだ。まるで、これといった趣味のつも持てぬま

まに定年退職の日を迎えてしまった仕事・途の男のように。

「ここはもう少しリズム感が欲しい、テンポの動かし方が不十分、感情の高まりが弱い」等々、究極の域まであと一歩という盤は意外と多い。そんなB級グルメならぬB級盤を、あえてターンテーブルに載せる。そして、「そこはさらに強く、ここはもっとゆっくり」など、満たされぬ思いに悶々としながら次の1枚に触手を伸ばす自虐的かつ知的な遊戯。そんな大人の悦びと無縁の人生なんて、まるで何とかを入れないコヒーのよう。

CD収集家にとって究極の1枚とは、まさにバンドラの箱である。それは心の中に想うべきものであり、実際に手にしてしまったが最後。その先には一体何が残されているのか。玉手箱を開けてしまった浦島太郎よろしく、眼前に積み上げられた凡演CDの山に茫然自失するのが関の山である。

愛用の「新明解国語辞典第5版」によれば、「恋愛」とは「特定の異性に特別の愛情をいだき、高揚した気分で、二人だけで一緒にいたい、精神的な一体感を分かち合いたい（中略）」と願いながら、常にはかなえられないで、やるせない思いに駆られたり、ま



智学館中等教育学校 教諭  
橋本伸弘

上智大学外国語学部英語学科卒業。英語教員歴20余年。クラシック音楽愛好歴は30年を超えるものの、楽器は弾かず。今年の冬は水戸芸術館「300人の第九」参加を画策中。

※クラシックの至宝とされる名盤中の名盤。トランプゲームに例えれば、オールマイティのジョーカーのような一枚。

れにかなえられて歓喜したりする状態に身を置くこと」とされる。ただし名定義である。だが、果たして叶えられてしまった恋愛はやがて冷めゆくのが世の習い。恋愛とは、成就への過程を楽しむメンタル・ゲームに他ならない。すでに人生の折返し点を過ぎた私ではあるが、究極の名盤に対する恋愛については生涯現役であり続けた。

「バイロイトの第九（※）」の封印を解く日はまだ遠い。



## 常磐大学硬式野球部 第39回明治神宮野球大会(全国大会)初出場、初勝利 軌跡とこれからの展望

常磐大学硬式野球部は、週5日、水戸市小吹町にあるナイター設備完備の硬式野球部専用グラウンドで練習しています。部員数は49名。関甲新学生野球リーグ1部に所属し、過去には、久保田智之(阪神)、小野寺力(西武)らプロ野球選手3名を輩出している硬式野球部ですが、同リーグには全国レベルの強豪校が所属しており、なかなか関東大会に進むチャンスがつかめないままでした。



円陣を組んで気持ちをひとつにする部員たち

しかし、2008年度秋季関甲新学生野球リーグ1部で2位になり、第4回関東地区大学野球選手権大会への初出場が決定的。すると、勢いに乗る硬式野球部は、一気に準優勝まで駆け上がり、関東大会上位2チームが出場できる明治神宮野球大会(全国大会)に初出場を成し遂げ、初勝利。1985年の創部以来の悲願を達成しました。

### チーム全体で勝ち取った勝利

常磐大学では、部員たちも通常の授業に出席し、日々の練習を始めるのは、陽が傾いてからです。全国の強豪校に比べ、練習量はどうしても少なくなります。また、スター選手が多いわけでもありません。正直、全国大会へ進む自信もありませんでした。それでも、今回ここまでの成果を出せたのは、やはり、チーム一丸、ベンチ一丸となった結果だと思っています。投手が抑えれば、打撃や守備も応えるように、選手たちみんなが自分の役割を精一杯果たし、一生懸命戦って来ました。全国大会ではスタ

ンドから聞こえる応援団の声援が心強く、気持ちが良かったです。

### 勝つ喜びが一番の成長

波に乗ると勢いがついて、よい結果を試合で出せるチームなので、みんなの気持ちを一つにできたことが勝因です。関東大会も全国大会も初出場で、当然、他のチームのレベルも分からない。しかし、それをマイナスイと捉えずに、せっかくなのでチャンスなのだから伸び伸びと、楽しく自分たちの野球をやろうとみんなで話しました。勢いがチーム全体のテンションをあげて、みんなの歯車がうまくかみあったのだと思います。試合で結果が出れば、その喜びは選手たちを大きく成長させます。気持ちが上向きなときは、試合でも実力が十分に発揮されるのです。

### これからの目標―― 春の全国大会出場を目指して

4年生の経験豊富な投手陣が抜けると、その後を担う投手に心配もあります。しかし、全国大会に出場して、1

勝をあげたという気持ちを忘れずにいれば、そう簡単には負けたくないと思います。春の全国大会に出場するには、所属リーグで優勝しなければなりません。関東大会、全国大会を経て、みんなひとまり大きくなりました。スター選手はいなくても、弱い部分をみんながカバーしながらチームが一丸となれば「和」の力で勝つことも難しいことではないと信じています。



右から、石川監督、吉岡選手、山田主将

チームが一つにまとまり全国大会出場を果たした硬式野球部。大舞台を前にしても気負わずに立ち向かった選手たちの表情には迷いがありませんでした。これからは貪欲に勝利を目指してほしいと思います。春の大会に向けて、今後の活躍が楽しみです。

| 2008年度秋季戦績                |                     |
|---------------------------|---------------------|
| 第4回関東地区大学<br>野球選手権大会(準優勝) | 1回戦 常磐大学 7-1 国際武道大学 |
| 準決勝 常磐大学 4-3 流通経済大学       | 決勝 常磐大学 1-5 創価大学    |
| 第39回明治神宮野球大会(ベスト8)        | 1回戦 常磐大学 3-1 愛知学院大学 |
| 準々決勝 常磐大学 0-4 立命館大学       |                     |

## 水泳部期待の1年生は 部活も勉強もあきらめない！

冬を迎えても、室内温水プールで元気に活動する水泳部。今回は、先シーズン中、成績、記録ともにうれしいニュースを届けてくれた1年生3人と、顧問の先生に集まっていたきました。

### 水泳実力者の勉強事情

水泳で輝かしい成績を残す3人ですが、学習面でも、より高レベルを目指す特進コースに所属しています。普段の部活と学習の両立について尋ねると、「やっぱり大変です。練習の後は毎日日本当に疲れて、眠くなっちゃいますから」という稲田実紗さん。県新人大会で平泳ぎ50m優勝に輝いた彼女の対策は、「登下校の電車の中など、ちょっとした時間を勉強に使うようにしています」このこと。一方、トライアスロン波崎大会一般女子の部で準優勝を飾った衣笠瑛子さんは、「家に帰って食事を済ませたら、すぐに課題を片付けてしまします」と、時間の使い方に気を配っているようにです。



衣笠瑛子さん

そんな毎日を送りながらも、部活を続ける3人。「二つのことを最後までやり遂げたいんです。水泳は小さい頃から続けているので」と話すのは、こちらも県新人大会バタフライ50mで優勝を果たした市毛雄一郎君。勉強だけじゃつまらないし、みんなで練習する時間が楽しくて、水泳を続けています(衣笠さん)「先輩も優しく、部活前後のおしゃべりも楽しみ。目標は大きく、ジュニアオリンピック、インターハイ出場を目指しています」(稲田さん)部活の時間を含め、みんなにとって水泳は生活の一部になっているそうです。



市毛雄一郎君

### 時間をつくるためには

そんな彼らを顧問の先生はどう見ているのでしょうか。今年度から水泳部の顧問を務める磯烟光幸先生にお話を伺いました。「私も学生の頃水泳と学業



稲田実紗さん

を両立させていたので、生徒には要領の良さが大切と指導しています。通常、進学コースが6時間授業に7限目のゼミがあるのに対し、特進コースは7時間授業プラスゼミ。学習レベルも高く、課題も多い中、どれだけ好きなことに時間を作れるか考えると、まず授業を聞き漏らさないことが大切です。実は10人ほどの1年生の大部分が特進コースなんです。今、部を盛り上げている彼らには、今後ぜひ頑張っ



磯烟光幸先生

てほしいですね」練習時間や種目、レベルも異なる部員たちの指導にあたり、心がけていることがあるそうです。「スイミングクラブでは練習中に選手を叱ることが多い。でも、この部活では生徒をほめて、伸ばすようにしています。私は高校時代に、水泳に意欲をなくして伸び悩んだ経験があるので、つらい練習を少しでも楽しくできるように心がけています。あとは、できるだけ多く声を掛け

て、生徒に近寄った指導を考えています」  
実際、1年生からは「常磐に入ってから一人ひとりを良く見てもらえています。泳ぎにつながる陸上トレーニングも教えていただきました(市毛君)この声が。先生自らの経験を元にした、きめ細かいサポートを受ける1年生。これからも次期シーズンに向けた水泳練習に、学力向上にと奮闘していくでしょう。





## 智学館中等教育学校 ペアレンツデイの開催

智学館中等教育学校の教育方針や教育内容について保護者の理解を得るために、第1回のペアレンツデイが開催され、1300名の出席のもと、全体会・グループセッション（担任、教科担当者からの説明・個人面談などが行われました）。

全体会では、小田卓爾名誉校長が、「智学館中等教育学校は人間教育を大切に、そのために、しっかりと学力を身につけていく学校です。学校の主役は子ども、子どもを三角形の頂点とし、教師と保護者が底辺で支える三位一体の関係が大事なのです」と抱負を述べられました。

諸澤篤子常任理事は、智学館中等教育学校の教育について、「世界的視野で考え行動できる人材の育成を目指し、人間の尊厳の考えに基づいて、生徒一人ひとりに目を向けた教育を行います」、「言語活動を重視し、テーマ（通称トピック）学習などを通して学ぶ楽しさを実感させ、学習意欲を育てていきます」などと述べました。続いて、各教室では担任が、学級経営



小田名誉校長の挨拶（全体会）

の方針を説明し、生徒の学習や生活などに話題が及ぶと保護者からは笑みが見られ、とても和やかな雰囲気でした。また、教科担当者からは、各教科の指導方針などと併せて「智学館教育メソッド」により、各教科で指導法を共有した授業を展開し、生徒一人ひとりに分かり易い学習指導に努めていることをプリント資料などを使って説明しました。

さらに、社会科の歴史の学び方では、「蒙古襲来絵詞」の資料から、「この絵を見てどんなことが考えられますか」と尋ねると、「元軍は、集団で戦っている。火薬も使ったりしています。幕府側は個人戦です」と中学生に戻ったようにお母さん方が答え



社会科教諭による教科内容説明

てくれました。歴史の授業では、生徒に「なぜなんだろう」という疑問を大切にしながら、歴史の大きな流れを学ばせるとともに歴史的な基礎知識をバランスよく指導しています。生徒自らが疑問に思ったことを自ら調べ、学習することの大切さなどを話したところ、保護者の多くがうなずいていたのが印象的でした。

ランチタイムでは、クラスごとに保護者が理事長や担任を囲み和気藹々と昼食を取りながら懇談が行われました。

テーマ学習の展示コーナーでは保護者の多くがクラスごとにまとめられた作品や我が子の授業での発表の様子などの感想文などに目を通していました。中には「例えばアフリカについて、全教科で授業を行うと子どもたちにとっては内容が深まり、分かり易く興味を持って、学習意欲がわいてくるものと思います。親としては大変有意義な取り組みだと思っています」と



テーマ学習の展示

率直な感想を述べている父親もいました。また、技術や家庭の本立てや小物入れの作品を見ては、「短期間でよくこれだけ作品を丁寧に作り上げたものだね」と目を細めて喜んでいる母親の姿も見られました。

最後に教科担当者による個別面談が行われました。教員の中には29名もの保護者と面談を行い大変でしたが、保護者によっては5人もの教員と面談ができ、「我が子の様子について多面的に聞くことができてとてもよかった」と述べたり、授業担当者や直接話をする機会がなかったので、実際に面談することができ、このような企画はとても有意義であると感じた」という声が多く聞かれました。このように新しいタイプのペアレンツデイは、全国的にも類例がほとんどなく、保護者と教職員が共に力を合わせて、智学館の新しい歴史の第一歩を踏み出すことができたと思います。（智学館中等教育学校教諭中根節男）

## 幼児教育研究会 「学びの場を求めて」

日々の保育の中で、子どもたちの言動や友達同士のかかわり合いなどから、成長を感じる場面に何度も出合います。それぞれの育ちを確かなものとして次のステップへつなげていければという願いから、本園では園内研究会を行っております。2006年度は『環境構成』、2007年度は『学び合う心と育ち合う心のハーモニー』を年間テーマとし、回ごとに研究会担当学年の具体的な狙いを打ち出した上で、午前の保育参観、午後の研究会を行ってまいりました。



個々の子どもたちの育ちをとらえ、それぞれの活動の中で学びを考えながら、「教師が学んでいこうとする姿勢はどうなのだろうか」という面にも重点を置いて進められました。そして、2008年度は、教育基本法の改正に伴い学校教育法、学校教育法施行規則が改正され、幼稚園教育要領も10年ぶりに改定されました。2009年4月の施行に向け、各園では、現行の教育課程の見直しを行っていきます。本園でも研究会を通して幼稚園教育要領の新旧の内容を把握するための作業を進めています。ただ、年長組と小学校との幼小関連の面では、取り組んでいく手立てがなかなか掴めずにいました。



毎年、前年度の担任が、小学校に修了生の様子を見に行く連絡会があります。この報告を聞いていると、子どもたちの育ちのとらえ方に大きな違いがあると痛感します。「小学校と幼稚園の温度差をいかに埋めていくのか」。それと同時に、園の中の異年齢のつながりにも注目しました

が、2階建ての構造上、教員側も行き来させることに躊躇してしまっている現実がありました。しかし「学年の違う子どもたちのかかわりから受ける学び合いは、多大である」と再確認し、2008年度の新たなテーマが決まっていきました。

今年度から、園内研究会を「幼児教育研究会」と改め、「自ら選びとる活動の中において、異年齢交流をスムーズに行うための実践と、それに対しての教師のかかわりを考えていく」という研究課題をすえました。

幼小関連では「実際に足を運んでいただき、子どもたちの今の姿を見てほしい」という願いから、近隣の小学校や幼稚園に案内を出し、大学、短大の先生方に加えて、1回目の7月には3校の小学校の先生方、2回目の10月には他園の先生方にも参観いただきました。アスレバル2008（運動会）でも異年齢交流を意識した演技内容にしたり、少し教師側からの揺さぶりを心掛けたりしたことで、学年を超えたかわりが見られました。教員間で情報交換を密にし、ゆとりとした流れで受け入れができるようになってきたのではないかと、会を進めながら感じました。

外部の先生方と同じ席で話し合



い、私たちにとっても沢山の学びがあった会となりました。また、それらの学びは園生活を共にしている園児一人ひとりがいるからこそと実感しました。「子どもたちから学ばせていただいている」という謙虚な気持ちを忘れずに、日々の保育に当たっていきたいと思います。まだまだ研究会の内容としては本当につたないものですが、常磐大学幼稚園で、子どもたちの遊びの様子を見ていただき、子どもの学びをとらえていく力を養い、お一人でも多くの関係者の方々と教員の学びの場を共有できるよう、発信していけたらと考えています。